

# 男子ハンドボール競技におけるフリースロー回数と防御成功率の関係

田中 圭 (201311937、ハンドボールコーチング論)

指導教員：山田永子、會田宏、藤本元

キーワード： フリースロー、セット防御、防御成功率、防御失敗率

## 【目的】

本研究では、男子大学レベルを対象に、セット攻撃に対する防御（以後セット防御）におけるフリースローの生起率をまず明らかにし、次にフリースロー生起率と防御成功率との関係を明らかにする。これらを通して、今後ハンドボールを指導する際の有用な知見を得ることを目的とする。

## 【方法】

関東学生男子秋季1部リーグ戦全45試合のセット防御3702シーンを研究対象とした。分析項目は、①フリースロー0回、②フリースロー1回、③フリースロー2回、④フリースロー3回、⑤フリースロー4回以上、⑥防御成功、⑦防御失敗のそれぞれの生起数である。

統計処理には、フリースロー回数の生起率を比較するために、カイ2乗検定（一要因）と残差分析を用いた。また、防御成功率と防御失敗率をフリースロー回数別に比較するために、カイ2乗検定（二要因）と残差分析を用いた。フリースロー回数を防御成否間で比較するために、対応のないt検定を用いた。

## 【結果】

本研究の結果、以下の6点が明らかになった。

- (1) 1回の攻撃が終了するまでにフリースローが生じていない割合は77.3%であり、フリースロー1回(19.1%)、フリースロー2回(2.9%)、フリースロー3回(0.6%)、フリースロー4回以上(0.1%)と比べて有意に高かった。
- (2) フリースロー回数を0, 1, 2, 3, 4回以上に分けて防御成功率と失敗率を比較したとき、両者間に差はなかった。
- (3) フリースロー回数を0, 1, 2, 3回以上に分けて防御成功率と失敗率を比較したとき、両者間に差はなかった。
- (4) フリースロー回数を0, 1, 2回以上に分けて防御成功率と失敗率を比較したとき、フリースロー0回の防御成功率は、防御失敗率より有意に低かった。また、フリースロー1回の防御成功率は有意に高い傾向にあった。
- (5) フリースロー回数を0, 1回以上に分けて防御成功率と失敗率を比較したとき、フリースロー0回の

防御成功率は、防御失敗率より有意に低かった。また、フリースロー1回以上の防御成功率は有意に高かった(表1)。

(6) フリースロー回数を防御成功と防御失敗に分けて示したとき、防御成功時は防御失敗時よりフリースロー回数が有意に多かった。

## 【考察】

男子大学レベルでは、フリースローによって攻撃を中断しないセット防御が多く、その際の防御は失敗に終わりやすいことが明らかになった。しかし、フリースローが1回以上あった場合、防御が成功になりやすいこと、また成功した防御は失敗した防御よりフリースロー回数が多いことが明らかになったことから、フリースローによってセット攻撃を中断することで防御成功に繋がると考えられる。攻撃側はフリースローになることでセット攻撃が中断し、組み立て局面からセット攻撃を再スタートしなければならないことや、攻撃を中断されたという心理的プレッシャーがかかることによって防御が成功に至る可能性が高くなるのではないかと考えられる。

## 【現場への提言】

セット防御ではフリースローによって1回または1回以上相手のセット攻撃を中断すると防御成功率が高いことから、セット防御の際は、相手のセット攻撃をできるだけ多く中断して、フリースローによって攻撃を再開させることを指導すべきであると実践現場に提言できる。

表1 フリースロー回数別にみた  
防御成功率と防御失敗率（2分類）

フリースロー回数	0回	1回以上
生起数	2863	839
防御成功率	56.5%†	60.9%*
防御失敗率	43.5%*	39.1%†

カイ2乗値=5.023 p<0.05

\*:有意に高い †:有意に低い